場所　〒502-0812　岐阜市八代３丁目27-8「ふれあいスペース」

わいわい、がやがや、みんなで哲学

第139号
2020年2月

# 哲学カフェ de ぎふ
# 千秋(せんしゅう)まちかど文庫　通信

運営委員会発行(記録：安藤彰浩、編集：中川健史)(主宰：吉田千秋 090-7917-9602　yoshida0@sepia.ocn.ne.jp

**第139回 例会　2020年1月9日**

# ≪激動の世界、新年の展望を語り合う≫

## 主宰者あいさつ・吉田千秋

新年おめでとうございます。年末年始、色々なことがあって、何が本当にめでたいのかって思いたくなりますが、先ずはこうして無事に、普通に生きられることは有り難いことだと言えるかもしれません。元旦1月1日が誕生日ですから、年が明けると何時も一つ上になって、今年77歳になりました。先日、被団協の会合があって、集まった人たちにお祝いをして頂きました。

今年も元旦の朝は早く起きて、近くのコンビニに新聞を買いに出掛けました。入手可能な新聞を求めて各紙の社説を読み比べることが年初めの行事となっています。地元で手に入らない産経を除いた全国紙及び地域の新聞を読み比べました。それぞれの立場を知るためには社説を読むことが最適です。今年のメディアの視点には全般にパンチがないという印象です。良い事を言っていますが、新聞各紙将来に確信が持てない様子が垣間見ます。

新聞各紙の社説が語る今年の展望についてコメントする前に、今年の前半、7月のシンポジウムまでの予定している毎月の例会テーマについて説明します。2月は、今年度の国家予算の内訳を見て、この国の政治の現実を考えます。一つの国の政治を理解するために必要なことは、税金がどう使われるかを知ることです。歳出の内訳を見ると、この国の政治に納税者の視点が欠けていることが明らかになります。安倍政権は、今年も1千兆円を越える負債を抱えて、これまで同様防衛費を増大させながら、他方で大企業向けの負担軽減の優遇税制を展開し続けています。3月は、災害について考えます。自然災害が増える傾向が見られますが、多くは人的活動の結果である気候変動の影響によるもので、単なる自然災害と考えることはできません。どういう対応が今求められているのか意見交換します。４月は、入学の季節ということで、毎年、教育問題を扱っています。ことしは昨年末、大きな問題となった大学入試の在り方について考えます。入試制度の在り方を見ると日本の教育行政の特異性がはっきり現れます。入試改革の目的は学生のためではなく、文部官僚の実績作りにあります。センター試験のために大がかりな機械を導入したりして、儲け話を作って、文部官僚は民間業者と密接な関係を作っています。5月は外国人労働者の問題を考えます。大きな話題にはなっていませんが、最近、フリーランスの外国人労働者が急増しています。背景に何があるのか見て行く必要があります。6月は家族の問題を考えます。日本人は標準家庭の幻想に囚われてきました。時代の変化、社会の現実に則した新しい繋がりを作ることが必要です。新しい夫婦像を模索できればと考えます。7月のシンポジウムでは、ポプリズムの問題を取り上げることができればと考えています。選挙で勝つためには手段を選ばない政治家が世界中で現れています。見境なく大衆に迎合する風潮が世界各地で民主政治を歪めています。ポプリストは反対勢力を敵と見なして、憎悪を掻き立て、社会の分断を深めています。民主主義に不可欠な議論が蔑にされる傾向が強まっていることが気懸りです。

新聞各紙も世界各地で横行するポプリズムの問題を指摘しています。世界は地球温暖化を始め待ったなしの環境問題を抱え、様々な危機に直面していて、或る意味、歴史の分岐点にあるという見方が共通認識になっています。地域間や各々の国内で貧困や格差が拡大しています。過去のものと思われた核兵器開発配備の問題が再び議論の的になろうとしています。息苦しさが強まっている様に感じられます。

見えるものだけではなく、見えないものを見ることが必要です。表に現れないものを見ることが本物の知力というものです。こうした知力を磨くことが求められています。私たちは解決の努力の必要な問題に直面しています。環境や貧困といった、私たちの生きる空間、生活の場を脅かす問題があるだけではありません。歴史問題またその認識を廻る民族間の対立の様に、世界各国の相互理解や関係を妨げる時間的な問題もあります。見えないものを見るためには色々な方法があります。文学や芸術を通じて、隠されている不都合な問題を知って学ぶこともできます。

朝日新聞は年始から「カナリアの歌」と題するルポタージュを掲載しています。この表題は、炭鉱夫が異変を事前に知るために、カナリアを籠に入れて炭鉱へ入ったという慣習に引っ掛けたものです。駄目なことを駄目とはっきり言うことが必要です。1月5日号の「カナリアの歌」は大学入試における英語の民間試験導入に疑問を感じて異議を申し立てた高校生のことを紹介しています。当事者の受験生の間で諦め気分が漂う中、ツィッターで異議を申し立てた結果、共感する人たちの輪が広がり、反対運動が盛り上がり、導入が延期となりました。

日本の若者は意識が薄いと言われます。その事実は意識調査の国際比較にもはっきり表れています。17歳から19歳の日本の若者で、自分を大人だと思う人の割合は、20%あまりにとどまります。インドやインドネシアや中国などアジア諸国でも、欧米諸国でも、6割から8割近い若者が大人だと思っていることと対照的な結果になっています。将来の夢を持っていると答えた若者も日本では半分程度に留まります。また日本の若者は自分のことを社会の主体だとも、歴史の主人公だとも思っていません。何故、世界の若者が共有する認識を日本の若者は持っていないのでしょう。日本の教育が大きく反映していると思います

昨年を振り返りながら、今年の世界の展望を語り合うことができたら幸いです。

## 最後に　吉田千秋

僕も少し歳をとりました。それなりに年を重ねると考え方、物の見方も少しずつ変わってきます。慎重になり、我慢強くもなって、他人の意見に異論があっても直ぐに反応することもなくなりました。40年前に、ドイツに留学する機会を得ました。縁があって最初、東独のライプチッヒにあるマルクス主義研究所に席を置いて、途中から、個人招請という形で、西独のハイデルベルクに移りました。東西冷戦下の当時、東独西独の出入りは制約があって容易ではありませんでしたが、東の人たちは、西側の生活などに興味を持っていて受信可能な西独のテレビ放送などで西側の様子を窺っていました。ベルリンの壁の崩壊のあった1989年偶々日本文化を研究する東独の二人のカップルが我が家に滞在していて、ドイツの状況について意見交換する機会がありました。自由選挙が行われる前、体制内で政変があって、改革派の代表であったハンス・モードロー氏が首相の職に就きました。東独市民の変化を求める要望が非常に大きかったという印象でした。

社会主義とは何か。ソビエト体制が本当に社会主義の求めるものだったのか。色々な疑問が残っていますが、当時、資本主義が勝って、社会主義が負けたのだという議論がなされ、歴史の問題に決着が付いたかのような言われ方がされました。資本主義の抱える様々な問題、矛盾が解消された訳ではありませんでした。第二次大戦の後、西側で資本主義の問題を緩和する様々な改革が行われました。しかし東ヨーロッパのソビエト体制崩壊後は、新自由主義が台頭して、西側世界で戦後導入された資本取引や企業活動の規制が撤廃されたり、累進課税による富の再分配の仕組みが緩和されたりして、修正された資本主義が再修正されるなど、西側の社会も大きく変貌を遂げました。その結果、カジノ資本主義といった言葉が生まれた様に、資本主義に内在する投機的な性格が露骨に現れて、単なる儲け主義が横行するようになりました。非正規雇用による収奪や格差拡大で、多くの人たちの生活の安定が損なわれている、見過ごしにできない現実も生まれました。資本主義の終焉を主張する人たちもいますが、そこまで言うのは少し先走り過ぎかもしれません。見境なく儲けだけを追求する資本主義の暴力性が問題であるのは誰の目にも明らかです。そうした資本主義の性格が米国の行動にも表れています。国際紛争には、無視してはならない複雑な背景がありますが、様々な紛争の当事者である米国の行動は制約の無い利潤追求から生まれる暴力性をはっきり示しています。

私たち庶民は生活する者として生の声を上げる必要があります。政治を富の奪い合いの道具にさせないようにしなければなりません。自由、平等、平和、人権といった

民主主義の根本理念の実現を前進させる様にしていかなくてはなりません。先ず個人が声を上げることが重要で、個人が不満をはっきり表明することで、例えば、男女平等は大きく前進して来ました。

米国はトランプ政権になって自国第一主義を掲げ、多国間の交渉を前提とする国際協調による平和安全保障の枠組みを無視して、平和をかく乱させる方向に進んでいて、これからの世界の情勢が危うくなっている様に見えます。昨年核合意を一方的に放棄し、年明けには、イラン革命防衛隊の司令官を殺害するなど、米国とイランの関係は極度に緊迫したものとなりました。ただ国際世論の圧力があって、一定のブレーキが掛かっていて、これ以上軍事的な緊張が高まることは、少なくとも今は、なさそうに見ます。悪いことも起きていて懸念材料も幾つかありますが、世界を人類の長い歴史全体を展望する形で見るならば、大きな前進を遂げたと言えます。真っ直ぐに進まずに、ジグザグコースを歩んでいて、短期的には後退している様に見えることもあるでしょう。富の分配には大きな問題がありますが、世界は総体的にはより豊かになっています。収奪と繁栄の複雑な仕組みを変えて行かなければなりません。大国のエゴを抑える仕組みは簡単には見つかりません。自国第一主義路線を進む米国でも、国内に大きな格差問題があって、野党の民主党の次の大統領選の候補選びでは、富裕層への増税や大学授業料の無償化など社会主義的な色彩の強い政策を掲げるサンダース候補やウォーレン候補が注目を集めています。日本社会は、ポスト冷戦の時代となって、支持団体の総評が解散した影響もあって、社会党が衰退して、かつて自民党の中にもあった石橋湛山に代表されるリベラルな伝統が失われて、政治的に見て、著しく保守化してきました。

政界全体では多くの政治家が権力に従属的になっていて、政権に物申すことが少なくなっています。労働組合も保守化していて、ただ自分たちの権益を守ることに終始する集まりに変わってしまいました。

全体に自分の考えで行動できる人たちが少なくなっています。考える場のないことが問題です。個人の立場の違いを越えて、様々な人たちに意見交換の機会が与えられることに、哲学カフェの存在意義があります。同じ立場の者たちが集まって、互いの意見を確認し合うだけでは面白くありません。異なる意見を尊びながら、合意点を見出して、実践に役立てる実践知を身につけることが重要です。他人事のように、ただ評論家的にコメントしているだけでは十分ではありません。哲学カフェはもちろん活動の場所ではありません。しかし単なる自己満足の戯れに終わる様な知ではなく、世の中の矛盾に目を向け、前向きに生活の場で活かせる知の力を磨く機会が与えられる様な場所にしていきたいと考えています。

## 「通信」感想、新年の抱負、期待、展望など

○カフェ通信もありがとうございました。

１２月例会の「女性差別問題」、皆さん、活発に発言されていて、充実した意見交流、私も、楽しく拝読させていただきました。島田さんの白川博士の「古代文字学」からの”男”、”女”の漢字の成り立ちも、興味深く読ませていただきました。農耕が富の蓄積を進め、富を守るための権力＝戦力が男尊女卑につながっていったのでしょうか。

中村哲さんについての先生のお話、私もスペイン語の”DIARIO″に同じような思いを記しのを思い出しました。サハラ砂漠のガラガラ蛇の足跡の話、「この１冊」も楽しく読ませていただきました。ありがとうございました。

今年の「哲学カフェ」も、ワイワイガヤガヤ続きますことをお祈りして。　（阿部隆子）

○「哲学経済優先であることも原因の一つであると思います。

最近、自分を励ます歌が流行っていることに気が付き、バブルのころの事を思い出しました。若者たちが涙を流しながら歌っている姿は彼らの不安とそれでも一筋の光を求め頑張っている姿に映り心が痛みます。

そんな中で政治家の不正は本当にひどいことと思いま

す。それでも、私の身の回りでは未来に向けて準備を始めている人もいます。大人も現実を受け止め努力していると感じます。

これからはますますコンピュータやロボットが生活の中に入ってき来るようになると思います。機械苦手な私にはまったく朗報ではないのですが、機織りから自動織機になり、人は機械をより高度に使いこなし美しい生地を作ってきたように私たちもロボットを使いこなしより快適な生活へと変化させることができるようになるのかもしれません。

年が明けてから形にとらわれない、色やリズムそしてバランスなどにより暮らしやすさを目指す提案をよく見かけるようになり新しい時代の雰囲気を感じます。

個人の幸せの形を、自分らしい快適さを自然環境や子供たちの教育プログラムも含め考えそれぞれが実現していく時代になるのかもしれないと思います。

また、新年早々きな臭いニュースが届き「中東はなかなか麒麟が来ませんね」と思いながらそこで暮らす人たちの大変さを思います。他国のことも考える時代にどんなアプローチが平和へとつながるのかを大河ドラマを見ながら考えるのもいいかなと思っています。

中村哲さんの講演を私も聞いたことがあります。「他国の軍隊が入ってくるたびに内戦がひどくなるからやめて」と言っていました。

なかなか昨年のことを思い出すことも、未来のことを考えることも難しくて何を書いたらよいのかわからないのですが、今年も幼稚な頭をひねりながらそれぞれのテーマに一生懸命向き合ってゆきたいと思っています。

（たかこ）

○新年の関心ごと・・「真実」です。

インターネットがある生活がほとんど当たり前になった今日、ありとあらゆる情報を知ることができるようになりました。それと同時に、誰かを貶めるためやお金儲けのために、情報の中には嘘や悪意が散りばめられ、根拠がなかったり偏見に満ちていたり、およそ情報として価値がないのに意図せず脳みそにインプットされてしまうことが起きています。

人間は知的で思考能力を持った生き物ですが、時に、すごく単純でわかりやすいものをいとも簡単に信じてしまう特徴があります。政治や人種、性の問題や芸能人のスキャンダルにおいても、なんとなく受け取っただけでその瞬間に人は「ごくわずかな洗脳」を受け、その入れてしまった間違った情報を、今度はその人がインターネットで拡散してしまいます。

そこで、今年の抱負は「真実をいかにして知るか」というのを掲げたいです。

人間の情報の受け取り方の癖を知り、どれが真実の情報か見極める力を培い、いろいろな角度から物事を観察するということを心がけたいなと思っています。

（タニ）

○やりかけているもの、栽培や謡・仕舞、芸能の旅などを習熟させることに加えて、自治体ウォッチャーをはじめようと考えている。

沖縄がそうであるように、政府は地方自治体の民意・主体性を全く無視し、もくろみを強行しようとしている。同じようなことを水道の民営化推進や病院の統廃合案が、地方公共団体を飛び越えて発表されている。ともに、岐阜市や岐阜県の市民たちに大きなマイナス影響をあたえるものだ。

「哲学カフェ」の仲間達には、いろいろな分野でウォッチャーをされている人が多い。私も刺激され自治体ウォッチャーになろう！と、ね。（尚）

○3年間程、苦しい時期を耐えて自分なりに努力をして、やっと年末から運気が変わり始めました。内に向かっていた気持ちを外に向け、オープンにしていくことを今年の抱負にしました。どんな年にするのかは決めていません。常に選択し直感で行い、どんな私になっているかワクワクしています。ということで、今年は3C　チャレンジする　チャンスと捉える　チェンジしていく　積極的にいきます！

（ひとみ）

○私は3年前76歳の時に、「立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所」認定の「漢字教育士」の資格を取得しました。岐阜県内では9人目。以後、地域の小学校生徒、自治会や市民団体向けに、「白川文字学」を紹介させていただき、その啓蒙と普及に努めてきました。漢字、「右」になぜ「口」があるのか？「道」になぜ「首」があるのか？などの質問に対して、答えられないと、「ボーと生きてんじゃないヨ！」と、「チコちゃん」に叱られる」かも知れません。

今世紀最大の碩学、白川静博士は反戦・平和主義者でもあります。体系化された古代文字の成り立ちを今年もさらに学びつつ、東洋文化圏における、白川博士の漢字教育思想と哲学に一歩でも2歩でも接近したいと思っている。

（島田幹夫）

○あれもやりたい、これもやりたいで　始まった昨年。ある程度固まりかけた事もあり、手つかずの物多々。今年はその続きの継続のようだ。口、手足腰、人との関わり

(＝おしゃべり、普通に体が動き、哲学カフェやその他に参加)を健康に保ち、百歳まで生きたいとの願望に変われなし。　（アダム・スミス）

〇今年は、家庭文庫を開設しようと思っております。子どもが小さかった頃、北海道室蘭市に住んでおり、そこには、7分室の家庭文庫が在りました。お手伝いしながら、子ども達と本の世界を旅したものです。人口は半減し、現在3分室。貴重な本を分けていただけることになりました。とりあえず、子どもの本約500冊。我が家にも約7000冊の本がありますから、大変です。子ども達からは、「デジタルブックの時代に」「少子化だよ」「知らない人がうちに出入りするね」など、いろいろ苦言をいわれましたが、地域の片隅に、そんな隠れ家があってもいいかな、と思っています。お客さんは、子ども？　シルバー世代？　ホームレス？　外国人？　誰も来ない？・・・　とにかく、1年かけて、準備しようと、思っています。　（かこちゃん・千葉在住）

〇昨年は、日本も世界全体も、深刻なドンズ詰まり状態にあることが一層明確になった年であったように思われる。様々な危機が慢性化する世界の中で、私はベネズエラのハイパーインフレによる社会崩壊に注目してきた。一昨年のデータでは年間物価上昇は268万倍、一巻のトイレットペーパーを買うのに数万枚のお札を山積みしないと買えなくなる、そんな経済破綻が10年近く続いてきた。市民は困窮のドン底に落とされ、500万人とも呼ばれる人々が海外に逃れ、移住先のペルーやメキシコから母国の窮状を数年前から訴え続けていた。そんな中2年ほど前、首都カラカスなどに留まり続けてネット上の英会話講師をやっているベネズエラ人を見つけることができ、あちらの様子と彼らの思いを生で聞けるようになった。

「昨年からスーパーに商品が並ぶようになり、活気が出てきた」、「人々はドルなどの外貨で買い物をし、ドルは裏経済の交換手段としてここ数年普及して蓄積されている」、「米のエンバルゴ(輸出入禁止令)をかいくぐってかつての輸出の中心の原油が目立たないように？売られ、移民した海外在住の人からの送金や海外とのビジネスなどでも外貨獲得し、それが庶民の懐にまで届くようになって裏経済を動かしている」、etc

「人間、貧すれば鈍す」、依然としてベネズエラは犯罪急増で「世界一危ない国」ではあるが、「鈍す」ばかりではなく、インターネットなどで情報を集め持てる知力を精一杯使って、本当とウソを見分けながらたくましく生きている人々の存在が分かり、少しハピーな気分になれた。もちろんこのまま順調に経済が回復するとは思わないが、・・・。　（フィリピン ウォッチャー）

〇納税権、勤労権、教育権が国民に与えられている。納税権については、税金の使われ方を知る権利が国民にある。去年10月よ消費税が2％アップして。それは5.7兆円にのぼり、軍事費に匹敵する。去年の国家予算は101兆円。今年はさらに多い・・。　（安永）

〇ごくたまにお邪魔させて頂いております。昨年は障害をお持ちの作家さんの「清流プラザ」での展示運営に関わる機会を頂きました。妻の問題は相変わらず”解決”の目途が立っておりません。ハラスメントがなぜ悪化するまで問題化しないのか、研究者としても深く考えさせられる一年でした。今年は博士論文執筆の目途が立つといいな、と思っております。
（Kokei Kito）

〇今年の抱負というか、仕方がないというか。今年は若い世代には遅れていますが、ネットバンキングとキャシュレス決済に取り込んでいこうと思っています。本心ではやりたくないのですが、利便性と経済的利得を考えるとやらざるを得ないというところです。

あーあ、ますます監視社会化「デストピア」に加担していくのかと思うと複雑な気持ちですが、世界中未来はこの方向に進んでいくのは不可避でしょう。そうなると、民主主義とか人権とかは、人類にとって言われるほど普遍性のあるものなのかと疑問に思ってしまう今日、この頃です。　（たなか）

〇社会で起こることについて、記憶して、自分なりにとらえたいと思います。「哲学カフェ」は、多くの意見が聞ける、良い場だと思います。楽しく参加しようと思います。今年を良い年にするために、頑張って、何事も行っていきたいです。　（E）

〇私は、2018年4月に病気を発症しそれ以降、現在も2週間に1回の化学療法を続けています。そのため哲学カフェ例会も欠席が続いています。副作用もあり、家で横になっている日もありますが何とか最低限の家事労働？はやれています。

振りかえれば2015年9月19日に「戦争法」を強行採決され、私自身としては「岐阜・九条の会」の街頭宣伝行動で、同年11月29日が最初でしたが、「岐阜・九条の会」代表世話人でもあり主宰の吉田千秋さんに背中を押されて、「戦争法反対」「戦争法廃止」と街頭で初めて声をあげました。今でも鮮明に覚えています。その後も

集会やデモ・学習会と積極的に参加して、子どもたちに「平和」な社会を引き渡すためにやれることを力を合わせてやってきました。

それにしても安倍政権はひどいですね。「モリ・カケ・ヤマ・アサ・サクラ」問題・「憲法改正」発言などやりたい放題です。こんな政権をまだやめさせることができないことは残念でありません。一日も早く退陣に向けて怒りを共有してみんなで力を合わせていろんな形で行動していきたいですね。病気療養中の身ですので、やれることには限りがありますが、「安倍政権より先には倒れない」つもりです。一日一日を大事に生活していきたいと思います。　　　　　　　　　　　　　　　　（吉田　隆）

○2020年・・一条の光への展望

1、北欧の一少女の地球環境問題への発言が世界を震撼させたこと。

2、ローマ法王がながさき、ひろしまを訪れ、核廃絶を訴えたこと。

3、格差社会の巨魁ゴーンが荷物箱となって国境を超えた、これにより何億という収入があさましき物であると証明されたこと。　　　　　　　　（ひらみつ）

○昨年、名古屋のNPO団体の紹介で「ドイツで学んだ福島県の高校生の報告会」を12月に開催しました。今回は男女10名の高校生がドイツ・ベルギーに渡って、その内2名が岐阜市で体験内容を報告してくれました。

彼女たちは、最初に福島原発事故の頃（当時小1，7～8歳）のお話をしてくれました。当時は「いじめ」などかなり辛い時期もあったようですが、「それでも自分たちは何かしなければならない」との思いで、このドイツ高校生交流プロジェクトに参加したとお聞きして、これは凄いことだと感心しました。ドイツでは、英語によるスピーチを繰り返して、今回の岐阜ではすっかり慣れたスピーチをしてくれました。

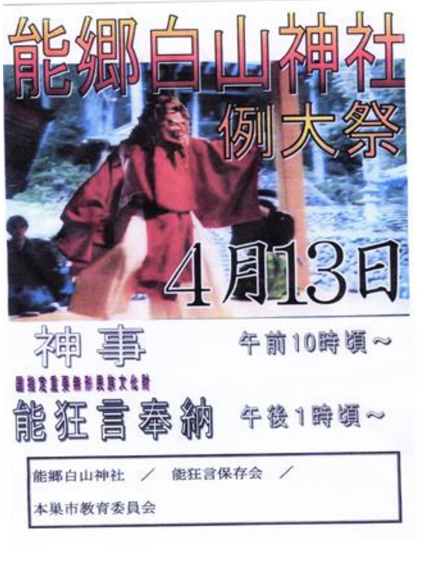
彼女たちから、ドイツの高校の授業を体験して「各自が意見を持ってデスカッションする」とか、「ドイツの高校生がデモや集会に積極的に参加する」ことなどから学んだこと、感じたことを聞くことができました。今後とも、この様な「勇気ある高校生（若者）」の背中を押して、微力ながらも支援を続けて行きたいと考えています。（A．I）

## ＜びっくりWORLDぎふ No.4-上＞

名古屋で暮らしていたころ、3月の澄みきった空の西北に雪をかぶった伊吹山を先頭に、とびとびに雪山が見える。あの雪山のひとつに能郷白山（1617m）があるのだろうな。ふもとに能を舞う里をもつ白山。春になると笛や太鼓がなり能を舞う・・・憧憬の想いで白い山をみていた。

岐阜に住まうようになり一年後、ツアー会社の企画に能郷白山登山があり参加した。その山登りは私に大きな喜びと自信をもたらしてくれた。そして今年、能郷の奉納能を観ることができた。雪深い山奥の地で神事能を絶やさず毎年4月13日に演じる人々がいる。それを支える人々がいる。観阿弥・世阿弥以前の能といわれており、そうなると600年以上続いていることになる。誰がいつどのようにして伝え、どのように伝承してきたのかは、宝物蔵が焼けてしまい、今では明らかにすることはできないとのこと。それは残念だけど、演じ伝える人々・村がある。

さあーいざ鎌倉！　室町時代の人々が見入り楽しんだ猿楽（江戸期までの呼び名）を観にいこう！　樽見鉄道にのり、車窓からの春の景色をめでる。電車は満員、途中、谷汲口で何人かは降りられる。それでも満員で立っている人もいる。この人たちがみんな能郷に行かれるのかしらと目を白黒。樽見駅に到着、バスは2台待っており、多くの人は「なーんだ、淡墨桜にいかれるんだ」と少しがっかり。能郷に行くバスも補助席を使うほど人が乗られる。バスの中では奈良から来たというご夫婦の方、能について詳しそうな人たちで、奈良の〇〇神社のリーフレットを見せてくれたり、「佐渡の６月はいいよ」と話が弾む。世阿弥は晩年佐渡に島流しになったのだ。バスは市営バス、幾つかの集落をまわっていく。バス停に止まって向きをかえる。「あれ？道を間違えたのかな？」「あー市営バスなんだ」と声がする。いよいよ能郷に到着、陽が当たる舞台前には椅子が並べてある。私たちはお弁当を食べる。能舞台が30以上あり、6月には各地の舞台で能が催される。




いよいよ開始、保存会会長の方のごあいさつがあった。今年会長になられたこと、74歳であられること、一段落のあいさつが終わると紙をだして、また、続

けられる。その実直さに涙がこぼれそうになる。私たちがバスのなかで、わぁーわぁーとはしゃいでいたころ、会長をはじめ保存会の皆さま方は、さぞかし緊張されながら準備をされていたことだろう。しっかり観なきゃあと気を引きしめる。

（以下次号）　（佐藤尚子）

## ＜世界一周貧乏旅　その7＞「気球を眺める犬」

正直、食われると思いました。

何せ狂犬病のワクチンを打ったかもわからない、人に慣れるより野生に慣れていそうな、そこそこに大きな犬が4匹も後ろを付いてくるのですから。

僕はその時、トルコのギョレメという地域で日が登る前の真っ暗な早朝から山登りをしていました。カサカサに乾いた背の低い植物がまばらに生えているだけの、味気ない山をなぜ早起きをして登っているかというと、気球を観るためなのです。

『カッパドキアの気球群』といえば、もしかしたら写真を見たことがある方がいるかもしれません。この気球群に乗るために、世界中から観光客が訪れます。

ただ気球に乗るには当然お金がかかり、しかも貧乏旅行中の僕にとっては決して安くない値段だったため、都合よく宿で知り合った人に「気球が上がる同じ高さの山があるぞ」と素敵な情報を聞き、山のてっぺんから気球に乗る人と同じ景色をタダで観るという作戦に出たのでした。

いざ、と山を登り始めた時、道端の草むらから犬が4匹も出て来ました。見ると首輪をしているのもいればしていないのもいて、飼われているのか野良なのか、それとも野良になったのか。そんな彼らは黙って勝手に後ろに付いて来るので、人気のない岩山で彼らに背後を取られている僕の頭には、邦人トルコで犬に食われる、という新聞の見出しが浮かんだのでした。

その後、まるで予想外に人懐っこかった犬たち目の前の日本人をかじることなく、結局一緒に山を最後まで登り切り、日の出直前のタイミングで頂上へ到着しました。そこは木が一本も生えていないひたすらだだっ広い場所で、遠くの方に僕が滞在している町も見えました。

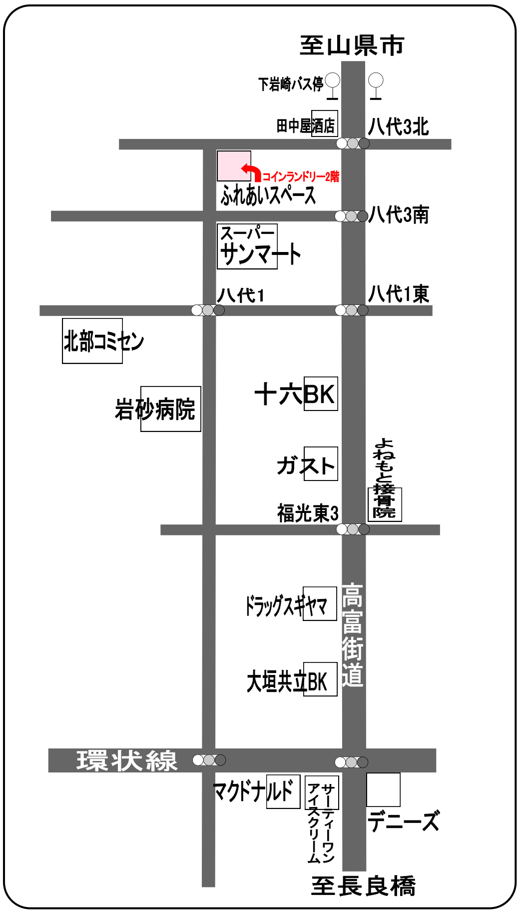
空は徐々に明るくなり、町のいたるところからは様々な色や模様をした気球が上がり始め、太陽が登り始めると気球もどんどん上昇していき、朝焼けのグラデーションの空に赤い朝日を浴びた気球がぽつぽつと浮かんでいきました。それはまるで、空に気球をカラフルな絵の具で描いたような、不思議で幻想的な光景でした。

ふと、犬と気球を一緒に撮ろうと思い、こんな写真を撮りました。犬の視力は人ほど色彩を感じ取れないし、しっぽの様子から見てもこの行動に特に理由はないのかもしれないのですが、ただ僕が素直に思ったのは、『犬も気球を眺めるんだなぁ』ということでした。

（カモノハシタニ）

## 例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



## 2020年前半　哲学カフェ、第24期の予定

場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

**例会は19:00～21:00です。**

| | |
|---|---|
| **第139回例会**<br>**1月9日(木)** | **「激動の世界、新年の展望を語りあう」(＝新年会も)**<br>＊昨年に続いて、今年も激動する世界・日本、これにどう向き合うのか。<br>＊平穏無事に行きそうもない中、飲食物を持ちより、真剣かつ楽しく語り合う場に。<br>⇒開始時間を6:30にします。酒類はなし。よろしく参集願います。 |
| 第140回例会<br>2月13日(木) | **「100兆円を越える国家予算。収支とも大問題では？」**<br>＊今年の国家予算は超大型予算。税収入を甘く見積もり、またもや赤字国債増。<br>＊支出でも大企業有利な政策目白押し。軍事費最高、国民生活はひっ迫。いいのか？ |
| 第141回例会<br>3月12日(木) | **「近年相次ぐ「自然」災害、備えは大丈夫か？」**<br>＊近年、地震のみならず、台風による河川決壊、浸水、死傷者続出、避難相次ぐ。<br>＊これは「自然災害」ではなく、「人災」ではないか。これにどう対処するのか。 |
| 第142回例会<br>4月9日(木) | **「大学入試はどうあってはならないのか？」**<br>＊来年度実施予定の「大学入試改革」は、文科省の不手際、批判続出でご破算に。<br>＊大学入試のあり方を、あらためて根本から考えなければならないのではないか。 |
| 第143回例会<br>5月14日(木) | **「急増するフリーランス、外国人労働者。どうなるの？」**<br>＊混迷続きの外国人労働者受け入れ問題にくわえて、新たに浮上した労働問題。<br>＊「労働者」ではなく、個人自由契約のフリーランサー。その問題点を探る。 |
| 第144回例会<br>6月11日(木) | **「あらためて家族のいまと、その行く末は？」**<br>＊「万引き家族」で示されたように、日本でも、家族・家族観はかなり多様化した。<br>＊でも、いまだ「家族」主義に拘泥し、個々人の自立を阻むものになっていないか。 |
| 第145回例会<br>7月4日or12日 | **創立12周年記念行事**<br>＊昨年は、「人口減少化社会をどうとらえ、どう備えるのか？」で、シンポ開催。<br>＊今年はどうするか？　テーマ、講師など自由に、早めに意見を寄せて下さい |

**哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願いします。口座記号・口座番号 00810 1 142912**
**加入者名　哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫**
**「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中‼ http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/**

## わいわいがやがや　アラカルト

★昨秋、紹介文を見て川越宗一『熱源』(文藝春秋刊)」を読んだ。400ページを超える大作だったが、空間・時間共に壮大なスケールで、波乱万丈、他の仕事もそっちのけで引き込まれ、久しぶりにいっきに完読した。

★年が明けてちょっとびっくりした。一つは、たまたま読んだこの小説に直木賞が与えられたこと、もう一つはあの麻生副総理が、「日本は2000年にわたり一つの民族、一つの王朝」と発言して批判を浴びたことです。

★この小説は「史実にもとづいたフィクション」で、明治から大正、昭和にかけての南樺太アイヌ人の差別に抗する歩みと、ロシア皇帝暗殺罪で流刑されたポーランド人の民俗学研究者の苦難の戦いと交流を描いている。

★双方ともに、民族の歴史、伝統、文化を否定され、抹殺されまいと己にできることを必死に行う。その結果、片やポーランドの独立は弟がはたし、片や南極点到達の夢を樺太犬操縦に託し、樺太アイヌの存在を歴史に残す。

★民族のアイデンティティのために命をかけて生きた二人、いやそれを支えた多くの人々の友情と連帯に心からの共感を覚えた。21世紀の今後は、国家とはなにか、民族とは何かを真剣に考え、その共存・共栄を進めることにかかっている。

★なのに、あの無責任大臣は、昨年4月に成立した「アイヌ新法」など無いかのように発言した。それは日本社会を支えている朝鮮・韓国や多くの外国人も蔑視し、差別する考えだ。一度、この大作を読んでみては‥何、そんな難しいのは読めないって。

（吉田千秋）